

俵孫一から吉野幸徳あて書簡

俵孫一（第14代北海道庁長官、大正4～8年（1915～19）在任）から吉野幸徳（太政官
官員、北海道庁吏員）へあてた書簡。吉野の令息逝去のお悔やみと俵の退官への芳墨に感
謝する旨が述べられている。大正8（1919）年5月6日付。年次の特定は封筒の消印から。

解読文

拜啓。陳者今回
退官ニ就キ御鄭
重ナル御芳墨難
有拜誦仕候、
御書面ニ依レハ御令
息神戸ニ於テ御逝
去被遊候趣、折角
御成学御就職相
成り御安神之処
御病氣トハ申ナカラ
幽明境ヲ異ニセ
ラレタル段、洵ニ御同情
ニ不耐候。虔ミテ御悔
申上候、乍憚奥様
ヘモ宜敷御伝被下度候、
却説、又、不思議ニモ
久々振りニ同一地方ニ
在勤罷在候処、
今回ノ退宦ハ遺憾
ニ存居候、右ニ就キ
色々御申越被下候段

感佩之外無之、退
官之理由トシテハ如何
ナル事ナルヤハ不明
ニ候へ共、兎モ角政
党之弊害ハ之ヲ
認ムヘク、御互将来
極力是等改善ニ
努ムルヲ可要ト存候、
先ハ御悔旁々御挨
拶迄、如此ニ御座候

敬具

五月六日

俵孫一

吉野幸徳殿

封筒

東京赤坂新坂町

封 俵孫一

北海道千歳郡恵庭村

吉野幸徳殿

親展

語句

安神…安心

幽明境を異にする…死別して幽界と顕界にわかれる。

却説（きやくせつ）…さて。そこで。

宦…官吏。官位、官職。

感佩（かんぱい）…かたじけなく心に感じる事。

参考文献

日本の歴代知事編纂会編『日本の歴代知事 第一巻』 昭和55年